

1.2 日本の天候・異常気象⁷

- 春から秋にかけて全国的に気温の高い状態が続き、低温は一時的だったため、年平均気温は全国的に高く、特に北日本でかなり高かった。
- 2021年12月～2022年2月は東・西日本では低温となり、日本海側を中心に大雪となった。
- 8月は北・東日本で不順な天候となった。東北北部・南部と北陸地方では梅雨明けが特定できなかった。

1.2.1 年間の天候

2022年の日本の年平均気温平年差、年降水量平年比、年間日照時間平年比の分布を図1.2-1に示す。年統計値の特徴は以下のとおりである。

- 年平均気温：北日本でかなり高く、東・西日本と沖縄・奄美で高かった。
- 年降水量：沖縄・奄美でかなり多く、北日本日本海側と北日本太平洋側が多かった。一方、西日本日本海側でかなり少なく、西日本太平洋側で少なかった。東日本日本海側と東日本太平洋側では平年並だった。
- 年間日照時間：北・西日本日本海側でかなり多く、北・東・西日本太平洋側と東日本日本海側が多かった。一方、沖縄・奄美でかなり少なかった。

⁷ 観測された気温や降水量が、平年値（1991～2020年の平均値）を計算した期間の累積度数の上位10%の値を超える場合に「かなり高い（多い）」、上位33.3%の値を超える場合に「高い（多い）」、上位33.3%以下かつ下位33.3%を超える場合に「平年並」、下位33.3%以下の場合に「低い（少ない）」、下位10%以下の場合に「かなり低い（少ない）」と表現している。

1.2.2 季節別の天候

2022年の日本の地域別平均気温平年差の経過を図1.2-2に、日本の季節別の平均気温平年差、降水量平年比、日照時間平年比の分布を図1.2-3に示す。また、月統計値で記録を更新した地点数と主な地域を表1.2-1に示す。季節別の天候の特徴は以下のとおりである。

(1) 冬 (2021年12月～2022年2月)

- 平均気温：東・西日本で低かった。北日本と沖縄・奄美では平年並だった。
- 降水量：北日本日本海側でかなり多く、沖縄・奄美が多かった。一方、西日本日本海側と西日本太平洋側でかなり少なかった。北・東日本太平洋側と東日本日本海側で平年並だった。
- 日照時間：北・西日本日本海側と北・東・西日本太平洋側が多かった。一方、沖縄・奄美で少なかった。東日本日本海側では平年並だった。

12月下旬以降に強い寒気の影響を受けたため、東・西日本では冬の平均気温は低かった。北日本では、12月下旬以降の冬型の気圧配置の強まりのほか、低気圧の影響も受けやすかったため、北日本日本海側の冬の降水量はかなり多く、冬の降雪量は多かった。東・西日本は、12月下旬以降、断続的に強い冬型の気圧配置となり、北陸地方から山陰地方にかけての日本海側を中心に記録的な大雪となった所もあった。西日本は、平年に比べ低気圧の影響を受けにくく、日本海側・太平洋側ともに、降水量はかなり少なく、日照時間は多くなった。沖縄・奄美では、12月下旬以降寒気の影響で雲が広がりやすく、1月下旬から2月にかけては低気圧や前線の影響を受けやすかったため、降水量は多く、日照時間は少なかった。

(2) 春 (2022年3～5月)

- 平均気温：北・西日本でかなり高く、東日本と沖縄・奄美で高かった。
- 降水量：北・東・西日本日本海側と北日本太平洋側で少なかった。一方、沖縄・奄美でかなり多く、東日本太平洋側が多かった。西日本太平洋側では平年並だった。
- 日照時間：北・東日本日本海側と北日本太平洋側でかなり多く、西日本日本海側が多かった。一方、沖縄・奄美で少なかった。東・西日本太平洋側では平年並だった。

北日本では期間を通して、東日本以西では3月から4月にかけて、暖かい空気が流れ込みやすかったため、春の平均気温は全国的に高く、特に、北・西日本ではかなり高かった。3月は北日本付近を繰り返し低気圧が通過した一方、東・西日本は移動性高気圧に覆われやすかった。4月から5月にかけては本州南岸を低気圧や前線が通過して東・西日本太平洋側を中心に曇りや雨の日が多い時期があったが、北日本を中心に高気圧に覆われやすく、晴れた日が多かった。このため、春の日照時間は北・東日本日本海側と北日本太平洋側でかなり多く、西日本日本海側が多かった。沖縄・奄美では、3月から4月にかけては高気圧に覆われやすかったが、5月は前線や湿った空気の影響を受け、曇りや雨の日が続いたため、春の降水量はかなり多く、日照時間は少なかった。

(3) 夏 (2022年6～8月)

- 平均気温：東・西日本と沖縄・奄美でかなり高く、北日本で高かった。
- 降水量：北日本日本海側と北日本太平洋側でかなり多く、東日本日本海側と東日本太平洋側が多かった。一方、西日本日本海側と西日本太平洋側で少なかった。沖縄・奄美では平年並だった。
- 日照時間：北日本太平洋側で少なかった。一方、西日本太平洋側と沖縄・奄美が多かった。北・東・西日本日本海側と東日本太平洋側では平年並だった。

夏の平均気温は全国的に高かった。特に、東・西日本と沖縄・奄美では夏を通して暖かい空気に覆われやすかったため平均気温がかなり高く、西日本では平年差+0.9℃となり、1946年の統計開始以降、1位タイの高温を記録した。北日本日本海側と北日本太平洋側では、8月を中心に6月下旬と7月中旬にも低気圧や前線などの影響を繰り返し受けたため、夏の降水量はかなり多かった。東北北部・南部と北陸地方では、8月の上・中旬に前線や湿った空気の影響を受けやすく、曇りや雨の日が多かったため、梅雨明けが特定できなかった。一方、太平洋高気圧に覆われやすく6月に梅雨前線の影響が弱かった西日本太平洋側では、夏の降水量が少なく、日照時間が多かった。沖縄・奄美では、特に8月に太平洋高気圧に覆われて晴れた日が多く、夏の日照時間が多かった。

(4) 秋 (2022年9～11月)

- 平均気温：全国的にかなり高かった。
- 降水量：沖縄・奄美でかなり多かった。一方、北日本太平洋側でかなり少なく、北・東日本日本海側で少なかった。東・西日本太平洋側と西日本日本海側では平年並だった。
- 日照時間：北・東・西日本日本海側でかなり多く、北・東・西日本太平洋側で多かった。一方、沖縄・奄美でかなり少なかった。

9月は北・東・西日本を中心に暖かい空気に覆われやすく、11月は寒気の影響が弱かったため、秋の平均気温は全国的にかなり高かった。北・東・西日本では秋の後半を中心に西高東低の冬型の気圧配置が現れにくく寒気の影響が弱かったことや、高気圧に覆われて晴れの日が多かったため、秋の日照時間は北・東・西日本日本海側でかなり多く、北・東・西日本太平洋側で多かった。また、秋の降水量は北日本太平洋側でかなり少なかった。東・西日本では、9月には台風第11号、台風第14号、台風第15号の影響で記録的な大雨や大荒れとなった所があった。沖縄・奄美では、9月と10月に台風の影響をたびたび受け、また10月中旬以降は前線や湿った空気の影響を受けやすく曇りや雨の日が多かったため、秋の降水量はかなり多く、日照時間はかなり少なかった。

(5) 初冬 (2022年12月)

オホーツク海や日本の東で低気圧が発達して強い冬型の気圧配置となる日が多く、日本海側を中心に太平洋側の一部でも大雪となった所があった。月降水量は北・東日本日本海側でかなり多く、月降雪量は東日本日本海側でかなり多く、月間日照時間は北日本日本海側でかなり少なかった。沖縄・奄美は、上旬は前線や低気圧の影響、中旬以降は気圧の谷や寒気の影響を受けやすかったため、月降水量はかなり多く、月間日照時間はかなり少なかった。中旬以降、西日本を中心に強い寒気が南下したため、月平均気温は東・西日本で低かった。

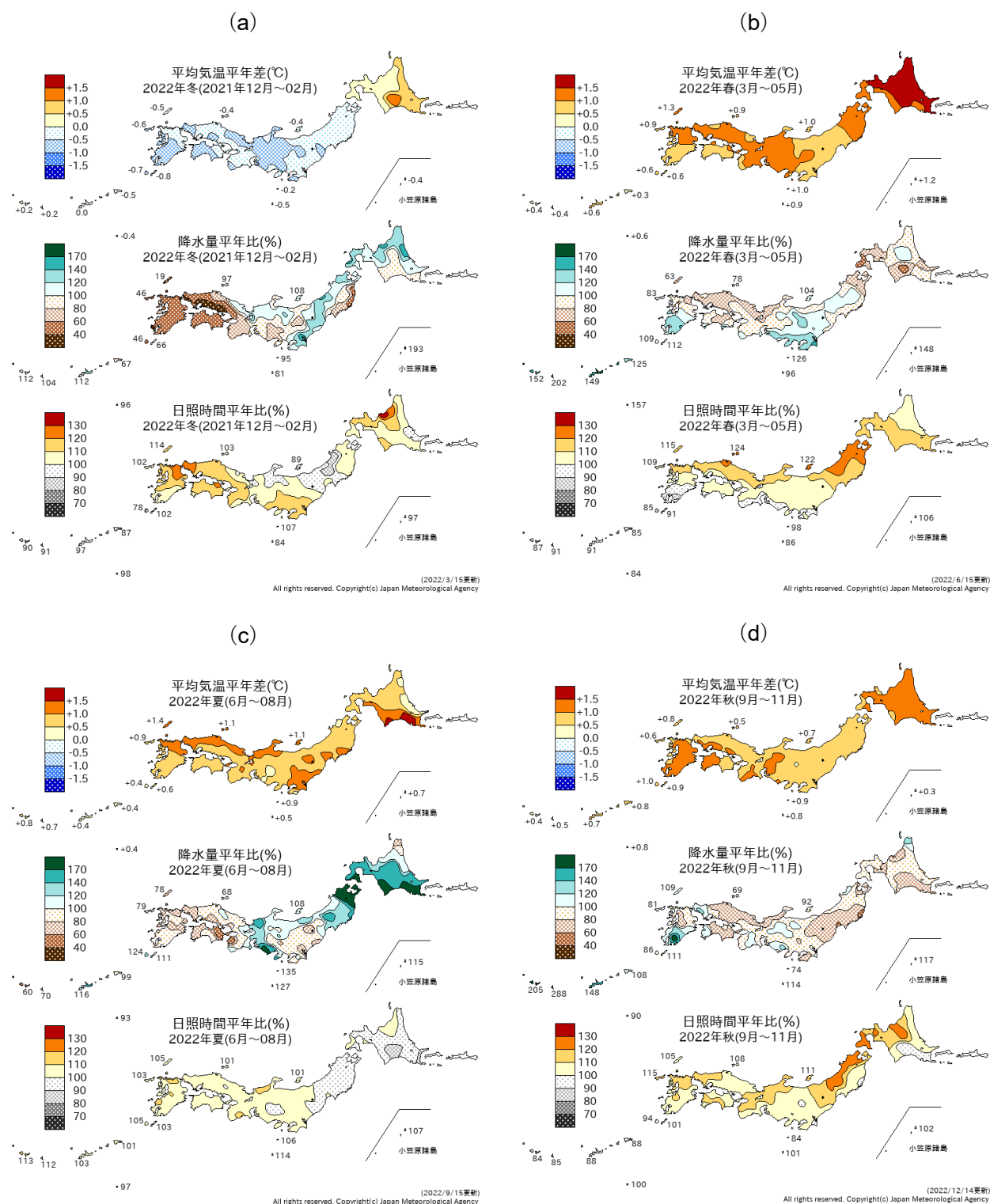


図 1.2-3 日本における 2022 年の季節別の平均気温、降水量、日照時間の平年差（比）分布⁸
 (a) : 冬 (2021 年 12 月～2022 年 2 月)、(b) : 春 (3～5 月)、(c) : 夏 (6～8 月)、(d) : 秋 (9～11 月)
 平年値は 1991～2020 年の平均値。

⁸ 気象庁ホームページでは、1961 年冬（前年 12～2 月）以降の季節別の分布図を公開している。
https://www.data.jma.go.jp/cpd/db/longfcst/trsmap_seasonal.html

表 1.2-1 月平均気温、月降水量、月間日照時間の記録を更新した地点数及び地域（2022 年）

全国 153 地点の気象台等の統計値の中で、観測史上 1 位となった地点数を記載した。値は 1 位を更新した地点数。タイ記録は含まない。タイ記録がある場合には「値々」として横に併記した。地域は観測史上 1 位（タイ記録を含む）となった地域を記載した。

（気温）北：北日本、東：東日本、西：西日本、沖奄：沖縄・奄美

（降水量、日照時間）北日：北日本日本海側、北太：北日本太平洋側、東日：東日本日本海側、東太：東日本太平洋側、西日：西日本日本海側、西太：西日本太平洋側、沖奄：沖縄・奄美（北、東、西は、日本海側、太平洋側ともに 1 位）

	平均気温(地点)		降水量(地点)		日照時間(地点)	
	高い記録	低い記録	多い記録	少ない記録	多い記録	少ない記録
1 月				1	2	
2 月				9 西日		
3 月						1
4 月	6		3	7	2、1々	
5 月			6 沖奄	4		3 沖奄
6 月	9、4々		2			
7 月	5、3々		1			
8 月	4、2々		6	1	1	
9 月	1々				1	
10 月						
11 月	18、20々 東		2		14 西日	
12 月			1			1